

今日の默想のてびき

週日聖書日課 詩編 90
2025年12月17日(水)

◆文脈と言葉

—永遠の神の前に、人間のはかなさと罪の現実を見つめ、回復と知恵を願う詩編です。

—構成は以下のように考えられます。永遠の神(1-2 節)、人間のはかなさ(3-6 節)、罪の告白と知恵への祈り(7-12 節)、救い・回復の求め(13-15 節)、御業の確かさに信頼する祝福の求め(16-17 節)。

◆默想のすじみち

(1)あらすじと説き明かし

—1-2 節：神を、永遠から永遠まで存在され、人間の宿るところ（避難場所）と告白します。永遠の神、その下にある有限な人への知恵と、まことの回復のための避難場所ということがふまえられています。

—3-6 節：人間の生のはかなさが歌われます。人はいつかは神によって塵に帰る存在であり、千年が一時にしか過ぎない神に比べて人は草花のように移ろい枯れしていくしかない存在であることを悟ります。

—7-12 節：ここでは、はかなさではなく自らの咎のゆえに神の怒りを買い、消え去る定めを嘆きます。主を畏れ敬う時、主の怒りも知ることになります。そのままではほんの 70-80 年の人生も労苦と災いを得るだけになってしまいます。そこで、人生ははかなく、また罪の故に滅びるのではなく、まことに神を知る知恵を求めます。

—13-15 節：そして、はかなさと罪のゆえの滅びからの救いを神に求めて願います。神の慈しみのみが生涯の喜びを与えてくださるからです。

—16-17 節：最後に、民が神へ立ち帰ることを求める、主の確かな御業と喜びがわたしたちの上にあるようにと祝福を願います。

—短くはかない人の生涯の中で、永遠の神を見、そこに現在の苦難からの救いと罪の赦しを見るのが知恵と回復の求めです。このように旧約では死を超えた命はあまり考えられていないようです。けれども、主イエスによって肉体の死をもって終わらない命「永遠の命」がもたらされます。